

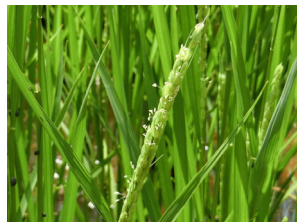
そらこめ通信 No.100 2021年11月16日発行

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

新型コロナがここに来てようやく落ち着きを見せております。札幌市などでは国内旅行者の数が少しずつ増えているようです。皆様方の中にも従前の生活に戻れそうな兆しを実感されている方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。ただ、コロナに関していえば今は小康状態といったところ。いまだ感染拡大が続いている海外のようすを見れば気を緩めるのが早いのは明らかです。大事なのは感染拡大を防ぎながら、いかにして経済を再生させるかということ。経済のアクセルを少しずつ踏みながらも、一方でマスク着用や手洗いの徹底など当分続ける必要があります。

待ちに待った新米の季節を迎えました。コロナ過がもたらしたコメ余りの影響で深刻な価格低下が続く状況とはいえ、新たに収穫されたコメを眺めるのは生産者としてやはり嬉しいものです。

今年の水稲の作況指数(10月25日現在)は、全国的には101で「平年並み」とのこと。地域別では、北海道が108の「良」、東北は102で「やや良」と豊作傾向。これに対して北陸が97、東海が98といずれも「やや不良」の見込み。都道府県別では全国一の米どころである新潟県が8月中旬からの低温と日照不足などの影響で96と落ち込んでいます。今年は天候に恵まれた北海道ですが108という指数は平成6年(1994年)以来27年ぶりの記録です。ちなみに前年の平成5年は全国的に冷夏で大凶作の年。記憶にある方も多いと思いますが、国内で消費するコメが足りず輸入米に頼った年でした。この年の作況指数は青森28、岩手30、宮城37、北海道が40とほぼ壊滅状態、全国では74という記録が残っています。大凶作の翌年が大豊作というのも興味深い取り合わせに思えます。沼田町が含まれる北空知も今年は108が見込まれています。食味的には総じてタンパク値が低く、どの品種も間違いない仕上がりになっております。ぜひ、この機会に多くの皆様にご賞味いただければありがたいと思います。



出穂と開花(7月23日)



コンバインによる稲刈り(9月16日)



モミの積み込み(9月16日)



トラックでモミを移送、乾燥機に投入する(9月16日)



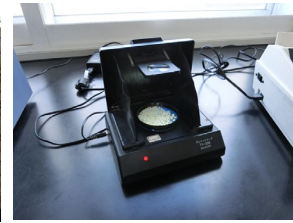
モミが充填された乾燥機(9月16日)等級検査当日のようす(10月12日)



計量のようす(10月12日)



サンプルの抜き取り(10月12日)



検査員による等級検査のようす(10月12日)



「ゆめぴりか」1等米です(10月12日) 検査済の米を本社内に運び込む 無人カメラに映り込んだ熊の映像

今年は異常なほど好天が続いた年でした。気温も高い日が多く、7月から8月にかけて36度以上を記録した日数が3日、30度以上の日数は実に26日ありました。特に7月14日から8月8日までの26日間で30度を下回ったのがたった1日だけ。7月は雨も少なく合計で2.5ミリしか降っていません。こんな年は今まであまり記憶にありません。こまめでくと高温障害も懸念されるところ。何事もほどほどが一番です。

インターネットで美味しいお米♪ (株)空知こめ工房 ホームページ <http://www.sorachi-kome.jp/>